

【(2013年3月期 第3四半期) 機関投資家・アナリスト向け決算説明会 議事録】

日本ハム株式会社

・開催日時	: 2013年2月4日(月) 10:00~11:00
・出席者	: 取締役常務執行役員(グループ経営本部長、経理財務部・IT戦略部担当) 畑 佳秀 広報IR部長 中島 茂

【質疑応答】

<全体>

Q1) 今期の営業利益計画300億円の達成確度と、来期の営業利益360億円の計画については?

A1)

- ・今期の営業利益計画300億円については、ストレッチだと思っているが、第4Qでの加工事業の業績改善や、海外事業の改善、食肉市況の回復傾向等、計画達成の可能性が全く無い訳ではないと考えており、計画を据え置いた。
- ・新中期経営計画パートIVにおける来年度の営業利益増加額60億円の内訳は、

加工事業本部	: 20億円
食肉事業本部	: 30億円
関連企業本部	: 7億円
全社(消去・調整)	: 3億円を計画している。

加工事業で主原料・副資材の価格上昇等、アゲンストの要因がある。加工事業のSCM改革・販売数量拡大・コスト改善効果の拡大や、食肉事業における市況回復や豪州事業の更なる改善を図り、カバーする事を考えているが、現時点では精査中の段階である。

Q2) 株価のCB転換価格到達に伴う対応、持ち合い解消の動向について教えてほしい。

A2)

- ・転換価格を超えたからといって、直ちに動きが出るとは思っていないが、株式への転換となった際は自己株式の取得等の方法を検討していく。
- ・当社の株式は金融機関の持ち合いが多い。もし持ち合い解消の動きがあれば、適切な対応をしていく。

Q3) 第3Qの消去・調整が計画を大きく上回ったが、第4Qも同様に上回る可能性はあるのか?

A3)

- ・現時点では1億円(計画差: +1億円)を予測している。

Q4) 商社による同業他社へのTOBがもたらす、現場への影響を教えてください。

A4)

- ・現状においては、現場での変化はあまり見られない。

<加工事業>

Q5) 加工事業の第4Qでの黒字化への施策についてはどのように考えているのか?

A5)

- ・ストレッチな計画だと思っている。これまで第4Qは年末需要の反動もあり厳しい業績が続いたが、前年から年始の商談を強化し、成果に繋がっていることなどから、達成する可能性はあると考えている。

Q6) ギフトの販売個数が前年より減少した理由を教えてください。

A6)

- ・ギフトマーケット全体の販売個数は前年比で96%、ハム・ソーセージ業界では98%、販売単価も下落している。マーケット全体が振るわない中、当社は99%となった。またフラッグシップ商品『美ノ国』は前年比134%、当社ギフト構成比15%と伸びており、当社のギフト商品全体で見た販売単価の下落も低く抑えた。

<食肉事業>

Q 7) 日本ハムの米国産牛肉の調達力がBSE発生前と比べて減少していない根拠や背景、米国産牛肉輸入規制緩和後の市況の見通しを教えてください。

A 7)

- ・輸入牛肉における当社の強みは、現地業者との信頼関係と、販売力だと考えている。特にタンや内臓のシェアが高い。米国産のタンや内臓は日本からの引き合いが強く、輸入量の増加を見込んでおり、当社にとってポジティブ要因である。
- ・ロース等の一般部位については米国が他国への販売にシフトしていること、米国内で牛の飼養頭数が少なく相場が上昇していることもあり、あまり日本への輸入量は増加せず、価格低下にも繋がらないと考えている。

Q 8) 豪州事業について、第3Q累計で赤字を改善した理由と今後も継続して改善出来るのか教えてください。

A 8)

- ・赤字改善の理由は、コスト低減と販売数量拡大が寄与したこと。
- ・今後は海外への販売拡大の取り組みを継続し、既存ブランドの『大麦牛』・『オリーブ牛』の再強化や、新ブランド『ワイアリーフ』の取り組みも継続する。新興国向けの販売拡大にも取り組む。

Q 9) 米州事業の今後の業績改善施策について教えてください。

A 9)

- ・現地ファームの生産性向上や米州域内での内販拡大、メキシコやチリなどのグループ会社で米州ファーム事業の減益分をカバーする。
- ・飼料の高騰に伴い、本来は豚肉の相場も上昇するが、米国では早期の出荷や母豚の出荷をしている農家がある為、供給が増加しており、豚肉の相場が上昇してこない。今年の春頃から農家の縮小や母豚の減少により出荷頭数が減ると考えており、徐々に相場が上昇するのではないかと見込んでいる。飼料の高騰もピークよりは落ち着いてきており、改善傾向になってくると見ている。

Q 10) 食肉販売会社の日本フードにおける営業利益が前年より減少した理由を教えてください。

A 10)

- ・第3Qの売上数量は前年比104%と伸びているが、豚肉・鶏肉の相場が前年より低く、販売マージンが取りづらくなっている。特に国産鶏肉における前年の相場は高止まりしていた反動もある。経費削減に取り組み、収益を確保していく。

Q 11) 足元の豚肉市況が弱い背景と来期の見通しを教えてください。

A 11)

- ・出荷頭数が多い為、現時点では相場がやや弱いが、今後は季節要因で相場が動くと考えている。春から夏にかけて徐々に相場が上昇し、夏を過ぎると下落する。今のところ相場に影響を与えるイレギュラーな要因は見られない。

以上